

平成28年度

学校関係者評価結果報告書

東京安達学園

専門学校 名古屋ビジュアルアーツ

平成29年7月1日

はじめに

昨年度の自己点検・自己評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会が調査・分析し

以下の通り、「平成28年度 学校関係者評価 結果報告」をまとめました。

今年度は、学生アンケートの回収率も高く、ご協力いただいた皆様に感謝いたしますと

ともに、本報告書をより良き学校運営のための一助としてご活用いただき、学校が益々

発展されますことを委員一同祈念いたします。

学校関係者評価委員

(委員長:学校長)

中川 貴司

(議長:学務責任者)

清水 禎徳

(外部委員)

重水 満仁 土屋 敏朗 和田 圭市
田島 治郎 久保田 一成 渡辺 律子

(事務局:事務長)

山田 佳毅

(1) 教育理念・目標

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(1) - 1 学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	「魅力ある学校作り」を掲げ、就職率(業界支持率)、維持率(学生満足度)の向上するために在校生のヒアリングを実行している。	特に問題なし
(1) - 2 学校における職業教育の特色は何か	4	本学の特色として「好き」を力に変えてコミュニケーション能力・職業人意識を身につけコンピテンシーを磨けることにある。	特に問題なし
(1) - 3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	社会的ニーズを取り入れるために企業との接点を密接にとり、産学連携イベントを積極的におこなっている。入学時には将来構想が見えるカリキュラム作り心掛けている。	特に問題なし
(1) - 4 学校の理念・目的・育成人材像特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3	本学では学費支弁者に対して、入学から卒業するまでに3回の保護者説明会/懇談会を実施。本学の教育方針の説明をおこない現在の就職環境を保護者に伝え情報交換をおこなっている。	学校全体の理念と目的が明確になっていることが評価できる。人材育成の部分に関しては、就職活動の動きが若干遅く感じる。
(1) - 5 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	業界ニーズに応えるために定期的に業界研究セミナーを実施し、各企業担当者が学生に対しての「もとめる人材像」「業務内容」の説明をおこなっている。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

学校運営の主幹として、教育理念、目標についての周知を強化する。具体として、設置学科のツール・パンフレット等ホームページでの情報開示を進め、ステークホルダーの要請や課題に対し、柔軟に応じていくCSR体制を図っていく。故に、本校と社会の共生を強化し、持続的成長の実現を目指していく。

(2) 学校運営

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(2)- 1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	各部署での担当業務の合理化を考慮し、校務分掌を作成し、学内の問題意識を共有し、新しい組織体制に構築し、問題解決に努めている。	各学科からの運営方針が評価委員会にも明確に伝わっており、問題なし
(2)- 2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	全体目標とは別に「3ヶ年計画」という事業計画を作成している3年毎の策定を明確にして学校全体で運営方針を常に確認している。	学校の長期目標だけではなく、短期目標を掲げることにより学校全体が目標事業計画に対して行動が的確である。
(2)- 3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか有効に機能しているか	4	学校での意思決定を円滑に行うために学務会議を週一回実施し、学校全体で物事の意味決定をおこなっている。また学科単位でも講師会議をおこない学科単位でも実施されている。	特に問題なし
(2)- 4 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	長期的、かつ年代のバランス、また次世代を見据えた人事を考慮していく必要がある。	特に問題なし
(2)- 5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	意思決定システムはほぼ確立されている。各業務における相談、決定は校長、事務長、学務長により行われている。	特に問題なし
(2)- 6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	ステークホルダーの要請や課題等に柔軟に応え、専修学校が果たすべきCSR(College Social Responsibility)として急激に変化する業界ニーズに対応し、学校と社会の共生できる持続的成長を実行している。	地域社会や業界が要望する内容に組織体制が整っていると判断している。産業界からの組織的依頼に関しても柔軟な対応ができています。
(2)- 7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3	主にホームページにて情報公開を適切にしており、特に課題はない。	ホームページ表記に問題はなし、今後は第三者からの視点での情報公開を依頼した。
(2)- 8 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	3	学内におけるIT化が遅れており情報共有、業務の小売に関して時代相応ではない。今後、入学希望者、在学生に対し、シラバス等の基本情報を確認できるように仕組みを整えていく。	今後、時代の順次性にあつた情報システムの導入を依頼。時代にあつた情報システムの効率化が図れれば一層業界の活性化に繋がることを期待。

今後に向けての学校の考え

本校の運営存立には、在学生を主に、学費支弁者、校友会、企業、自治体地域社会といった、さまざまなステークホルダーが関わっている。本校は広域なこれらの社会的関係者の求める要請に高い満足度で応えなければならない。情報共有・提供に関し、紙書類による受け渡しが、多々あるため、ペーパーレスによる学生情報の一本化、各種データベース管理等インフラ整備をしていく。

(3) 教育活動

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(3)- 1 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	教育課程の編成や実施方針及び教育理念、カリキュラム、シラバス、資格検定における計画や目標については、年度毎に学科長が策定している。	特に問題なし
(3)- 2 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	全教員の授業計画書を授業期毎に取りまとめ保管している。在学生には初回の授業においてシラバスを元にカリキュラム内容を説明している。	学生は入学前より目指す就職先が明確にしており、教育機関として、人材育成や業界ニーズに順次性をもって対応ができています。
(3)- 3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	各学科カリキュラムはシラバスに基づいて編成されている。授業評価に関しては、スチューデントエコー(学生アンケート)を授業期毎に実施し、学科運営に反映させている。	学科ごとのカリキュラム編成についても評価委員会に報告があり、特に問題なし。
(3)- 4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか	3	授業内には産学連携によるインターンシップや教育イベントを導入し、本物のサービスを体感し、学べる学習環境作りに努めている。	キャリアサポートセンターが企業と学校のパイプラインとなっており、積極的なキャリア教育が実施されている。
(3)- 5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	幅広い学術領域を広げるためにFD(Faculty Development)委員会を設置し、教員育成をおこなう。またSD(Staff Development)としては、各教育団体が主催しているフォーラム等に参加していく。	特に問題なし
(3)- 6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4	学内カリキュラムでは現場との温度差が生じるため、各業界からのインターンシップや業界アルバイトを学生に紹介をしている。インターンシップ/アルバイトから正社員に昇格できる業界アルバイト形態を開拓を実施している。	特に問題なし
(3)- 7 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	学生アンケート(スチューデントエコー)を学期毎に実施しており、特に課題はない。	学生アンケートよりの学生要望を全てカリキュラムに反映させるのは困難とはなるが、学生の声を学内授業に導入させる努力がうかがえる。
(3)- 8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	主に教育イベントと一部授業において業界人の意見や評価をいただいているがさらに増やしていきたい。	特に問題なし

(3)- 9	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価及び単位認定は「学則」及び「学生心得・細則」に従い厳正に行っている。	特に問題なし
(3)- 10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	必要な授業の中で資格所得に対しての専門授業を行うことでカリキュラムの中に取り入れ実践している。	特に問題なし
(3)- 11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	各業界にて第一線で活躍している現場のプロを学校の非常勤講師として招き、現場で必要な技術・心構えを在籍生に伝えている。教員の採用基準としては、数年の実務経験と実績を満たしたものを採用している。	各授業カリキュラムに業界で活躍しているプロを学校に招き業界知識の教授をおこなっている。
(3)- 12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3	教員確保のマネジメントに関しては、在職中の教員からの紹介が中心となっている。今後、積極的に公募をおこない、改善を図っていく。	現在、報告を受けた募集状況としては、紹介が主となっているが、今後は外に向けての募集にも力をいれてほしい。
(3)- 13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	3	長期勤務に携わるほどその時代の業界、学生の質に対応することができるよう、さらなる教員体制の確立が必要である。今後、FD活動の一環として各業界法人主催の研修会に参加し、改善を図る。	教員の指導力には問題はないが、現場での実務を反映できる授業カリキュラム作成を産学連携で力を入れていく。
(3)- 14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	職員による各学科の業界セミナーの研修(外部)への参加を積極的におこなっていくとともに時代や学生の変化に担う指導方法の勉強会の実施を検討していく。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

「本校で育成すべきコンピテンシ」

今日、世界共通に求められるコンピテンシー「知的(技術)」「社会」「コミュニケーション」の育成である。知的分野としては、学生に対して一方的な業界情報を伝えるだけでなく、教員自らFD活動の一環として「技術」「知識」といった分野を産業界と連携し、学術領域を広げていく。社会的分野としては、業界ニーズをいち早く吸い上げ教育現場に伝えていく。コミュニケーションに関しては、学生が自分の考えた内容を具現化し、正確に同僚に伝えることができることである。知識基盤社会を迎え、単に知識だけでなく、習得した知識を現場で活用して、社会(現場)での課題解決に繋げられる教育活動をおこなっていく。

(4) 学修成果

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(4)- 1 就職率の向上がはかられているか	4	就職率の向上を図るために求職希望票としてPDP(Personal Development Plan)を作成させ、1年生後期よりビジョンを明確にする。また学生に対し、①担任、②キャリアサポートセンター、③卒業生が連携する「トリプルサポーター」を確立し、就職活動を支援している。	特に問題なし
(4)- 2 資格取得率の向上がはかられているか	3	資格・検定の実績は十分と判断するが、特別授業や対策授業にかける時間数が膨大となり、学生への負担が懸念される。	名古屋ビジュアルアーツの学生が目指す業界に関しては、特に必要な資格は必要ではない。やる気と元気が資本の業界のため、学生諸氏からの積極的な行動に期待する。
(4)- 3 退学率の低減が図られているか	4	退学の低減策としては、定期的な学生とのカウンセリングを実施。カウンセリングを通じて細かいニーズを吸い上げて、学務会議等で情報共有に努めている。	特に問題なし
(4)- 4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	卒業生の活躍は学校の魅力として大きな存在であると考え、卒業生の動向を広報とキャリアサポートセンターが連動して情報収集にあたっている。	特に問題なし
(4)- 5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3	現場で活躍している学生は定期的に学校に来校するが、全体の把握が不十分な部分でもある。本学は卒業後も15年間のキャリア支援をおこなっているので、この制度を活用して更にサポート体制を強化していく。	新卒対象の求人票のラインアップには特に問題はないが、今後は中途採用に向けての採用募集にも力をいれ、業界の人材不足の解消に協力をいただきたい。

今後に向けての学校の考え

アクティブラーニングの取組み強化として、一方向的な授業カリキュラムではなく、経験学習として様々な業界現場に足を運び現場体験をおこない、就職率向上を継続的に図っていく。

また、学生には、PDP(Personal Development Plan)を作成させ、学生自身のキャリアプランを作成させ、就職への意欲向上をおこなっていく。

(5) 学生支援

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(5)- 1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	学生の相談や助言は担任との個別面談を計画的に実施し、学務会議にて報告をおこなっている。対象の学生にとってよりよい学生生活を教職員で意見交換をおこなっている。	学生の支援体制に関しては、キャリアサポートセンターと各学科でおこなっており、特に問題なし。
(5)- 2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	進路や就職への支援体制は担任とキャリアサポートセンターにより行われる。またスクールカウンセラーとして「心の相談室」も設置されており、学生の精神的負担をサポートしている。	学生と企業との中間的役割としてキャリアサポートセンターが大きな役割をおこなっており
(5)- 3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	入学者には特待生や奨学金制度により経済的支援を行っている。在学生には奨学金や分納制度だけではなく、本校の卒業生の組織である校友会において在学生支援経済支援制度を導入している。	特に問題なし
(5)- 4 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	学生の健康管理は、学校保健安全法に基づく健康診断を毎年実施している。	特に問題なし
(5)- 5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	授業外での活動に関しては担任とキャリアサポートにより情報の共有を行っているが、詳細に関して掴みきれていない現状である。	特に問題なし
(5)- 6 学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	学生の生活環境への支援は必要に応じて保護者に連絡し、学校と学費支弁者が協力して学生のサポートにあたっている。	特に問題なし
(5)- 7 保護者と適切に連携しているか	4	本学では入学前から入学後年間で3回の保護者説明会/懇談会を実施する。また2年生後期で未内定の学生を対象に3者懇談をじっしている。	学費支弁者に対して学生の学習状況から就職活動に関する情報開示を就職懇談会を通して伝えていることを報告を受ける。

(5)- 8	卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生への支援体制が十分でないと判断している。対策としては、在学中よりキャリア教育とは一生涯のものだと指導をおこない、学校と学生が共に構築させていく場を提供する。	前述にも述べた通り、業界の人材不足を解消するためにも卒業生の支援体制の構築に期待する。
(5)- 9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	キャリアサポートセンターでは、年に数回に渡り、業界研究セミナーを実施している。このセミナーを通して学生達が多く企業との密接な教育環境を提供している。	学生と企業のマッチングイベントとして定期的に企業説明会等を実施している。
(5)- 10	高校高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3	高校側の要望により、業界を知る意図として「業界研究」出前授業を行っている。	今後も、高校との連携を継続頂きたい。

今後に向けての学校の考え

本学、キャリアサポートセンターでは、学生個々に対し、就職・デビューを主体に就職活動や進路サポートを構築している。また、保護者等との連携(定期保護者説明会)をおこない、モチベーション維持向上の働きかけを行っている。卒業生に対しても、転職支援等サポートする体制を強化していく共に、卒業生からの業界情報、求人情報の共有など係わりがもてる環境の充実を図っていく。

(6) 教育環境

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(6)- 1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	毎年、入学者増加のため、定期的に改築をおこない学生にとって学習環境を整えている。施設/設備に関しても実際の現場で使用しているものを完備している。	特に問題なし
(6)- 2 学内外の実習施設、インターンシップ海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学内外での実習、研修は行われているが、海外研修に関しては、現在実施していない。海外研修に関しては、現在検討中である。	今後、学校と産業界がグローバル社会に参加するにあたり、海外実習の導入は不可欠と話し合いをおこなった。
(6)- 3 防災に対する体制は整備されているか	3	本校の校舎は築23年を経過しており、現在耐震工事を含め、校舎や施設の改修、設備の更新を計画し、安全性・利便性・清潔感の向上につとめている。	現在、安達学園4校で耐震工事を現在おこなっており、学校の安全性確保がなされている。今後も時代にあった防災設備に期待をしている。

今後に向けての学校の考え

「安全性を第一に現場実習できる教育環境」

業界で使用している設備・機材を積極的に取り入れ、第一線の現場で活躍できる人財育成に力を注いでいる。また、平成25年度は、校舎躯体について、耐震診断を実施し、補強要の箇所について、平成27年度・28年度において耐震工事を実施済。今後は、定期的な防災研修へ教職員を派遣し、知・技を習得させ、学内において、避難訓練など行い、日常的に危機管理意識を享受する体制づくりを進めている。

(7) 学生の受け入れ募集

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(7)- 1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	愛知県専修学校各種学校連合会の定める募集活動に関わる諸規定を順守。進路検討者サポートの観点から、親身な勧誘活動を全職員で心がけている。また募集活動にかかる費用に関しても、収入に対して低水準を保つ	特に問題なし
(7)- 2 学生募集活動において教育効果は正確に伝えられているか	4	就職率、あるいはオーディション合格率等を明確に公表するだけでなく、卒業生の活躍も広く紹介し、教育の成果を分かり易く伝える努力を行っている。	特に問題なし
(7)- 3 学納金は妥当なものとなっているか	4	同業他校と比して相場であり、提供している教育サービス、教育成果の観点から適切な学納金と判断している。当面、学納金の変更は考えていない。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

本校では、学生募集活動における精神として、「入りを計り出るを制す」を掲げている。入学検討時から、心の触れ合いを基本に、学生生活を通じて、知識・技術の向上、社会人意識を磨く場を提供し、目指す業界への就業・デビューに導く体制を継続していく。

(8) 財務

適切・・4 ほぼ適切・・3 やや不適切・・2 不適切・・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(8)- 1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	専門学校を取り巻く募集環境は依然として厳しさを増しているが、見学者、在校生へのきめ細かな対応により学生の増加傾向にあり、これを継続できるように務める。中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を計る一方で、施設設	特に問題ない
(8)- 2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	年度予算は中期計画と関連して立案されており、目的や目標を勘案し計画達成に向けたものになっている。予算の執行については毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら、行っている。	特に問題ない
(8)- 3 財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	私立学校法の規定に基づき、監事により業務、財産状況の監査を含めて会計監査が行われており、会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会に提出し決裁を受けている。	特に問題ない
(8)- 4 財務情報公開の体制整備はできているか	3	本校としては、財務諸表の公開については、ホームページに公開している。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

近年、ほぼ予定通りの募集人員が確保出来ていることから、学校の財務状況は安定しており順調に推移しているが、学生活動による経費の増大や、退学者の増加など懸念される部分も多く、経費節減に努めながら健全な学校運営を目指していく。

(9) 法令等の遵守

適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(9)- 1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	特に問題はないが、新制度や規則の制定、各種届出事項などの際に多角的にチェックし、法令等を遵守する体制を構築するとともに、運用が適切に行われているかを責任者間にて検証している。	特に問題なし
(9)- 2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	学校に必要な個人情報の保護を毎年の講師会において専任教員・兼務教員ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。	特に問題なし
(9)- 3 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	3	定期的に確認を行うことで発見することも多数あり、その都度レベルの向上に努めている。	今後も定期的に改善に努める。
(9)- 4 自己評価結果を公開しているか	4	本校としては、自己点検・評価の公開については、ホームページに公開している。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

個人情報保護は、学校法人全体において、各種情報の保護を図っている。「個人情報保護法に関する教職員規定内規」を定め、個人、部署ごとに情報漏えいがないよう取り組んでいる。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(10)- 1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	地域文化交流会とした学園祭の運営、学内施設を利用した番組制作等を行っている。	特に問題なし
(10)- 2 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	教育イベントとして、学区内にある池田公園夏祭り、栄スプリング、本校学園祭、落書き消し隊で地域と共に社会貢献をおこなっている。	地域行事へ積極的に参画、また、学校祭へ地域住民の招待など、知意識社会との共創をなさっていると感じる。
(10)- 3 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3	地域に対する生涯教育・公開講座は十分ではないと判断している。地域交流の機会を教育イベントや課題活動の中で増やしてく。	地域社会への貢献は十分にできているが、公開講座・教育訓練という部分では今後積極的におこなっていく要望を伝えた。

今後に向けての学校の考え

「専修学校とステークホルダーとの持続可能な社会づくり」

地域社会の取組みや業界ニーズをくみ取り、可能な限りの社会貢献として、コラボレーション事業に参加している。今後は地域社会に対する公開講座等も視野に入れて更なる社会貢献・地域貢献に取組みをおこなっていく考えである。

(11) 国際交流 (必要に応じて)

適切・4 ほぼ適切・3 やや不適切・2 不適切・1

評価項目	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
(11)- 1 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	3	現在、本校に通うほとんどの外国人は永住者であり、留学生は非常に少ない。受け入れる体制を整え募集に繋げたい。	今後、グローバル活動の一環として、留学生の積極的な受入れをおこなってほしい。学校の業績・実績から考えれば特に問題なく、実施できると感じてる。
(11)- 2 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	適切な手続きを行っており、現在問題はない。	特に問題なし
(11)- 3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	留学生単独のクラス編成もなく、その指導は学科長により行われているが、現在問題はない。	上記にも述べたように今後留学生の受入れ体制を充実させる願いを学校に申し出た。
(11)- 4 学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	国際的な評価を受ける事は少ないのが現状であるため、企業と連携しグローバルな教育を目指したい。	特に問題なし

今後に向けての学校の考え

2020年東京オリンピックを控え、今後ますますグローバル社会に拍車がかかる日本において、エンターテインメント、放送業界もさらなる現場のニーズに答えられるよう、本校としても国際交流にさらに力を入れ、グローバルな人材育成に努めていく。また留学生受け入れの体制を整え、国際社会への貢献と共に、本校の在校生の国際化や語学力アップなどの相乗効果を図りたい。